

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	ムオンチャ郡とトアンザオ郡の女性と女兒が、人身取引や女性と子どもに対する暴力(Violence Against Women and Children: 以下 VAWC) のリスクから身を守ることができるようになる
	(今期事業達成目標) ムオンチャ郡とトアンザオ郡において、女性と女兒を守るための地域社会の仕組みの基盤が作られる
(2) 事業内容	本事業は 3 年間で計画している事業の 1 年目であり、2020 年 3 月に開始した。しかし事業開始直後から、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりスタッフの採用が遅れ、またベトナム政府が 20~30 人規模の会議・活動を承認しなかったことから、キックオフミーティングをはじめ、研修など多くの活動が延期され、事業全体の進行に約 2 ヶ月の遅れが生じた。しかし新型コロナウイルスが沈静化した 6 月以降、活動の進捗が早まり、コミュニティ・センター建設地を決定し、郡・コミューンの人民委員会、子ども保護委員会(以下、CPC) が中心となって建設の準備を進めた。またその他の活動に関しても女性連合、各対象村の村長、地域住民など、すべての関係者が事業への共通理解と協力を得られるよう、関係者間の関係構築・強化に努めた。具体的には、活動開始時に 2 つの郡の事業監理委員会のメンバーと、事業対象地の 7 つのコミューン、各村のコミューン・人民委員会メンバー、CPC、女性連合のメンバーとの会議を行い、事業内容を説明し、事業への理解を深め、初年度の活動計画を検討する機会を持った。 現地スタッフは対象村での会議に出席し、対象地域の人々に事業を紹介し、信頼関係を築いている。また本事業の直接受益者である女性や女兒、CPC メンバーに対して、女性グループ、子どもクラブ、CPC の機能強化に関する詳細な活動内容を説明した。各対象グループが直面する課題を聞き取り、これまでに収集した情報をもとに、より効果的なアプローチを特定し、各グループ活動用に作成中のマニュアルに反映させている。また、これまで築いてきた関係性や情報をもとに、円滑で効果的な事業実施に努めるとともに、事業終了後の持続可能性の強化も視野に入れて活動を行っている。 【活動内容】 1. コミュニティ・センターで、女性(19-29 歳)が人身取引や VAWC の現状と対策、リーダーシップスキルを学び、リスクへの自覚を高め、知識を獲得 1-1. コミュニティ・センターの新築・改装 ムオンチャ郡サローンコミューン、トアンザオ郡プニューンコミューンにおいて、計画通り 2 棟のコミュニティ・センターを建設した。しかし申請時に提出した設計図に則って建設ができる土地を現地で獲得することができず、結果としてトイレの位置を変更することとなった(2020 年 11 月 27 日の変更報告による承認済)。サローン II 村のコミュニティ・センターでは、背面の壁から 1.1m の場所に、チュンジン村のコミュニティ・センターでは、横壁から 2.3m の場所にトイレを設置した(別添資料参照)。 またムオンチャ郡ハンガイコミューン、プニューンコミューンでは、既存のコミュニティ・センターに子どもが遊べるスペースと、女性が授乳や着替えができるスペース、女性専用のトイレを設置し、女性が利用しやすいコミュニティ・センターに改築した。本事業で支援した合計 4 つのコミュニティ・センターは現在、村の会議が行われる場所となり、特に、女性たちはより快適に使うことができると回答している。また頻繁にコミュニティ・センターを利用す

る女性の割合が増加した(詳細な指標は後述)。

1-2. 人身取引とVAWC から自分と子どもを守るためのスキル研修

女性グループの月例会:

参加者数	セッション数
計 4,320 人	258 回 (1 村につき 6 回/年*43 村)

人身取引対策とVAWC 防止のため「安全にインターネットを使う方法」や「安全な出稼ぎ」についてのファシリテーター研修:

参加者数	研修回数
計 59 人 (ムオンチャ郡 29 人、 トアンザオ郡 30 人)	研修: 計 4 回(3 日*2 コース*各郡 2 回) コーチング: 計 2 回(4 日間*各郡 1 回)

研修を受けたファシリテーターによるセッション:

形式	参加者数	セッション数
クラス形式での開催	計 787 人	43 回
在宅形式での開催	計 411 人	15 回

本事業では、VAWC や人身取引から自分や子どもを守るためのスキルを身につけるため、対象村においてグループ・セッションが有効であると考え、各対象村において女性グループの設立、または強化を支援している。1 年次を終了し、ムオンチャ郡とトアンザオ郡の両郡において計 43 の女性グループがあり、計 1,290 人のメンバーが参加している。この女性グループの活動は、女性連合のメンバーが中心となり、1 年次には合計 258 回の月例会を実施し、計 4,320 人の対象者が参加した。(1 村につき 6 回/年*43 村)。

この研修で使用する行動変容の研修教材は、女性連合のメンバーと協働しながら、モン族の女性の成功体験を基にしたケースストーリーを軸に作成した。識字率の低さと、ベトナム語(モン族とタイ族)を母国語としない人が多いことを鑑み、文字ではなく絵を使ったものとし、本型の紙芝居の装丁で、研修では対話形式で使用し、参加者が皆で一緒に学ぶことができる教材とした。114 部を印刷し、ムオンチャ郡とトアンザオ郡に配布した。

教材開発と並行して、女性グループのファシリテーターを務めるグループリーダーや保護者を対象に、人身取引対策とVAWC 防止のため「安全にインターネットを使う方法」や「安全な出稼ぎ」についての研修を実施した。ムオンチャ郡とトアンザオ郡の両郡で、3 日間の研修を各郡 2 コースの計 4 回と、4 日間のコーチングを各郡 1 回の計 2 回実施し、合計 59 人が参加した(ムオンチャ郡: 29 人、トアンザオ郡: 30 人)。また研修を受けたファシリテーターが、開発された教材を使用し VAWC と人身取引の防止、安全なインターネット利用に関するセッションを実施した。43 回のセッションで計 787 人の女性が参加し、また村の中心部から離れた場所に住んでいる女性や、農作業のためにセッションに参加できない女性を対象に、自宅でのセッションを 15 回実施し、近隣の女性計 411 人の女性が参加することができた。

1-3. リーダーシップ研修

対象郡 2 郡の女性連合のリーダー 50 人(25 人*2 コース)に対し、リーダーシップに関する**トレーナー育成のための研修 (Training of Trainers:以下 ToT)**を実施した。ToT 研修を受講した女性連合のリーダーは、担当する女性グループに対して、それぞれの地域の言語(タイ語やモン語)を使いながら、AV 機器、物語、ゲームなどを取り入れた研修を行った。研修では、主にジェンダー問題への意識向上、自らの判断力や企画力の強化、問題解決のためのマネジメント能力の向上に重点を置いた。300 人以上の女性グループのメンバーが参加し、研修の結果、対象の女性グループ 131 人の女性がリーダーシップに関する理解を深めることができた。ここで学んだリーダーたちが、その後 1 年間それぞれの女性グループのファシリテーターとしてセッションを実施した。事業が始まった当初、グループリーダーたちは女性連合のスタッフのサポートなしにセッションをリードすることは難しかったが、1 年が経ち、今では自分一人でセッションを実施することができるようになった。

2. 女兒 (12-18 歳) が、学校や子どもクラブでの活動を通して人身取引や VAWC のリスクから自分と友人を守るスキルを習得

2-1. 女兒に対するライフスキル研修

子どもクラブの講師へのライフスキル ToT 研修:

参加者数	トレーニング数
計 100 人(25 人*4 回)対象の 21 の子どもクラブより参加)	計 4 回 (3 日間、2 回 *2 郡)

子どもたちへのライフスキル研修:

参加者数	トレーニング数
計 400 人以上	計 21 回 (1 回*21 の子どもクラブ)

対象 2 郡に、14 の村と 7 つの学校に合計 21 の子どもクラブを設置した。事業開始時に、子どもクラブの目的と活動内容について話し合った際、子どもたちは積極的に子どもクラブの活動に期待することを発表し、この時の発表内容は 1 年次の活動計画に入れ込まれた。また研修マニュアルは、インターネットの安全な使用方法や様々な形態の虐待や搾取から身を守り、未来への希望を持った価値観を育むという内容をもって、現地の状況に基づいて作成し、関係者のコメントを基に最終化した。このマニュアルには、子どもたちにとって重要な「目標設定をするスキル」、「自分の考えやアイデアを伝えるスキル」、「自分を守るスキル」、「責任を取ることの重要性」、「問題解決能力」など 10 のスキルが盛り込まれている。

また上記のマニュアルを使って、ムオンチャ郡、トアンザオ郡、両郡において 3 日間のトレーニングを各 2 回、計 4 回実施した。対象となる 21 の学校や村の子どもクラブ、コミュニンのユース・ユニオンのメンバー、子どもの保護活動を行うコミュニンのスタッフのうち、100 人のファシリテーターが参加した。1 年次は、各子どもクラブにおいて 1 回ライフスキル研修を実施し、VAWC の予防、安全な出稼ぎ、VAWC から身を守るためのライフスキルな

どの研修を行った。各子どもクラブでの研修に合計 400 人以上の子どもが研修に参加した。

1 年次の活動のハイライトとして、生徒が主体的に計画した啓発イベントの実施があげられる。対象村や学校でスキルを学んだ子どもたちが、自分たちで企画して人身取引予防、安全なインターネットの利用、子どもに対する暴力の防止に関する啓発イベントを、学校全体や対象地域で開催した。啓発イベントでは、人身取引をテーマにした寸劇やクイズなどを行い、人身取引とは何か、加害者は知らない人だけではなく身近な人でもあり得ること、誰もが被害者になり得る事などを参加者とともに学ぶ機会とした。これらのイベントに計 504 人以上の子どもたちが参加した。

2-2. 女兒が自発的に地域でイベントを計画・実施する

1 年次は 21 の子どもクラブにおいて計 84 回の活動集会をもち、7 つの子どもクラブ運営委員会の計 30 人のメンバーが、毎月の活動の計画策定と活動内容の見直しを行った。また、ディエンビエン省内の他郡の中学校の子どもクラブとの交流会に、各郡から選ばれた 50 人の優秀な女兒と 10 人の教師が参加した。交流会に参加した子どもたちは、非常に生き生きと楽しんでおり、これまでの研修内容や習得したスキルについて積極的に意見交換し、発言内容からこれまでの学習した内容を十分に理解していることがうかがえた。

またこれまでに学んだスキルを活かし、7 つの学校で、女兒たちが中心となって絵画コンテストを実施し、計 200 人以上の子どもたちが参加した。参加した子どもたちからは、絵を描きながら「地域がより安全になってほしい」や、「友達に誰が加害者になるのか知ってもらいたい」、「どんな女の子も被害にあう可能性があることを知ってもらいたい」と考えたという感想が共有された。子どもたちの作品は、人身取引の被害者、加害者の両方の目線に立って描かれたもの、暴力について保護者の立場、子どもの立場に立って描かれたものなど多岐に渡り、絵から読み取れるメッセージも幅広い。子どもクラブの活動を通して参加した子どもたち一人一人が学びを深めたことが読み取れる。2 年次は子どもたちのメッセージを一つのスローガンにまとめ、地域社会や学校での啓発活動に組み込んでいきたいと考えている。

3. 女兒と女性が収入向上の術を会得

3-1. 女性と女兒が就労のための基礎的なスキルを会得する

ハイリスクの女性への基礎的な就労スキル研修:

形式	参加者数	研修回数
クラス形式での開催	計 411 人	15 回
家庭ベースでの開催	計 311 人	243 回

女性のための職業準備スキル研修:

参加者数	研修回数
計 883 人	43 回

女兒のための職業準備スキル研修:

参加者数	研修回数
計 860 人	43 回

安全な求人情報の提供:

参加者数	セッション回数
計 484 人	7 回

コミュニケーションや、金融リテラシー等のスキル研修は、義務教育を修了しておらず、人身取引や VAWC の被害に合いやすいハイリスクグループの女性が優先的に参加した。これらの研修は計 15 回実施し、411 人が参加した。また研修会に参加できない遠隔地の女性のため、自宅でのフォローアップセッションを 243 回行い、近隣の女性数人が一緒に参加できるようにし、合計 311 人の女性が参加することができた。さらに女性のための職業準備スキル研修を計 43 回実施した。この研修を通して、883 人の女性が実際に店舗や会社、工場などで働く際に必要なコミュニケーション・スキル、チームワーク、問題解決スキル、自己管理スキルなどを学んだ。

被害リスク予備軍の女兒に対しては、中学卒業後の進路に焦点を当てた職業準備スキル研修を計 43 回実施し、860 人が参加した。政府が承認したディエンビエン省内外の安全な仕事情報を提供するセッションを 7 回実施し、484 人のハイリスクの女性と女兒を対象にディエンビエン省内外の安全な求人情報の提供を行った。セッション参加後、参加者全体の 18% の人が紹介された求人情報について詳細をベトナム国労働・傷病兵・社会局 (Department of Labor, Invalids and Social Affairs: 以下、「DoLISA」) に問い合わせしており、安全な職へつながるきっかけを提供することができた。

3-2. 女性が収入向上のための基礎的なスキルを会得する

家畜の世話等の ToT 研修:

参加者数	研修回数
計 116 人 ムオンチャ郡: 50 人 トアンザオ郡: 66 人	計 4 回(2 日間*各郡 2 回)

家畜の世話等の実地研修:

形式	参加者数	研修回数
コミュニティ・センターでの開催	計 420 人	23 回
家庭ベースでの開催	計 944 人	156 回

郡農業事務所と協力し、50 人の女性グループリーダーを対象に、家畜(牛、豚、小型家畜)の世話、伝染病への対処の仕方、家庭菜園の育て方に関する ToT 研修を 2 日間実施した。また、ToT 研修を受けた女性グループリーダーによって、400 人以上の女性を対象に 23 回の実地研修を実施し

た。また、コミュニティ・センターでの研修に参加できなかった 944 人の女性を対象に、家庭での研修を 156 回実施した。

女性グループメンバーへの家畜(鶏、牛、豚など)の提供は自己資金で予定しており、2 年次に実施予定である。

郡女性連合の監督の下、ムオンチャ郡、トアンザオ郡の両郡で ToT 研修や貯蓄グループの運営を行った。貯蓄グループは 18 歳から 30 歳までの女性がメンバーとなっている女性グループで、2 郡で計 4 回の研修を受けたリーダーが各 1 回の会議をグループで実施し(1 回 * 43 グループで計 43 回)、貯蓄の仕方や計画的な支出等について説明した。現在までに 43 の貯蓄グループが毎月定期的に貯蓄をしながらグループ活動をしており、グループ平均の貯蓄額は 1,349,231VND(約 6400 円)、個人の平均貯蓄額は約 36,500VND(約 172 円)となっている。貯蓄グループの規約に則り、メンバーの女性たちは必要な金額を利子なしに 6 か月借り入れることができるようになり、農作業に必要な種や肥料などを購入する助けとなっている。これまでは、小売店に利子を払って借金していたため、貯蓄グループの活動は女性たちの金銭的な負担を軽減し、生活の助けとなっている。貯蓄グループの参加者である Sua 氏は、「グループ活動に参加する前、私は本当に内気で自身がありませんでした。グループ活動に参加するのは最初は気が進まなかったのです。でも、グループで活動するようになって少しずつ自信が持てるようになってきました。最近では、もっと多くの人たちに参加してもらいたいと思っています」と述べた。

4. 人身取引と VAWC の予防のための効果的な枠組みの実施

4-1. 人身取引と VAWC の予防策、ジェンダー平等の基礎知識のある子どもの保護委員会 (以下「CPC」)が機能する

郡政府と CPC メンバーへの TOT 研修:

参加者数	研修回数
55 人	計 4 回(3 日*2 コース*各郡)

1 年目の本事業では、コミューン政府、郡政府と CPC メンバーからなる 55 人の参加者に対して、4 つの TOT 研修コース(3 日*2 コース)を実施した。研修の中では人身取引と VAWC の防止、ジェンダー不平等について啓発を行い、事案が発生した際の対策として実施するケースマネジメントおよび家庭訪問の内容について説明した。例えば、ジェンダー不平等に関するセッションでは、参加者にそれぞれ毎日のスケジュールを書き出してもらい、夫と妻が何にどのくらいの時間を使っているかを書き込んだ。その結果、妻が夫よりも多くの仕事を担っているのに対し、夫は妻よりも多くの時間休憩していることが分かった。ファシリテーターは各家庭に内包するジェンダー不平等の現実に関及しつつ、女性が家事を行うことは当然のことではないと説明した。またこの結果を基に、各家庭の男女がお互いの家庭内での仕事について注意を払い、分担していくように促した。

また、CPC やコミューン・郡政府は VAWC 防止のため地域社会で報告とレファラル制度を機能させるため、年間活動計画を策定し実施した。コミュニ

	ンでは事業運営委員会 30 人が参加する年間活動計画会議を実施し、郡では各郡の事業運営委員会とコミュニン事業運営委員会のメンバー計 80 人が参加し、年間活動計画を策定した。活動計画の策定を通して、それぞれの委員会のメンバーは事業内容の理解を深めることができ、1 年次終了時点では、2 年次の活動をより良くするため、活動内容についてメンバーから活発な提案をすることができた。 対象村から CPC への報告システムを強化し、ハイリスクの人々を支援する活動は、変更申請のとおり 2 年次の実施に変更した。 レファラル・パートナーに対して、提供するサービスの質の向上を目指したワークショップの開催は、変更申請のとおり 2 年次の実施に変更した。 <u>4-2. 地域の人々が人身取引と VAWC の予防策、ジェンダー平等についての啓発メッセージを受け取る</u> 男性、女性、男児、女児を含む地域住民を対象に、CPC によるコミュニティ・センターで啓発セッションを計 43 回実施し(人身取引や VAWC のリスク、予防策、男女平等に関するもの)、計 981 人の地域の人に参加した。同セッションでは、ジェンダー平等は女性だけの問題ではなく、男性と女性双方に関係するということ、ジェンダー不平等の意識が人身取引の要因となっていること、そして地域の女性と女児を人身取引や VAWG から守るために一人一人がしなければならないことなどを説明した。啓発セッションに参加した男性は、「妻が女性クラブに参加するようになり、いきいきと美しくなったと思います。妻の姿を見て、私もジェンダー平等に対する考え方が変わり、自分の責任についてより考えるようになりました。今は妻をより愛するようになり、もっと優しく妻に接するようになっています。」と述べた。 <u>4-3. 郡政府が学校及び地域での活動をモニタリングする体制が構築される</u> 43 人の女性グループリーダーは CPC の監督の下、月例会議を開き毎月の行動計画を策定した。会議の中で女性たちは前月の活動の実施状況や、村の女性たちが直面する問題等を話し合い、その内容を計画に反映した。女性グループリーダーの中には、それまで地域で活動に参加したことがない者もあり、このような会議や地域の活動でリーダーの役割を果たすことは簡単なことではなかった。しかし 1 年間活動に参加して会議の司会進行をしたり、グループの意見をまとめたり、毎月の計画を立てたりすることが少しずつできるようになっている。メンバーは各々、自分たちが研修で学んだ知識とスキルが何であるか理解し、研修で学んだコミュニケーション方法を日常生活や仕事の中で適用するようにしている。 また女性グループのリーダーは CPC の監督の下、四半期に一度活動振り返りの会議を開いた。会議では事業スタッフより、事業目標、活動内容、手法についての情報を紹介するだけでなく、CPC メンバーや受益者とともに、VAWG 防止の目標達成に向けた全体計画の話し合いを行った。女性たちが自分たちの問題について話し合うため、定期的に会議を開くのは初めての経験だった。サローンコミュニンの女性リーダー、チャン・ティ氏「女性グループの活動は私にとって非常に有意義なものでした。今では私も研修で学んだ知識と実践を基に、村の女性たちにジェンダー平等について説明し、自分に自信を持つ方法を伝えることができるようになりました。人生に
--	---

	おけるジェンダーの問題も恐れることはなくなります」と述べている。
(3)達成された成果	【成果 1】コミュニティ・センターで、女性(19-29 歳)が人身取引や VAWC の現状と対策、リーダーシップスキルを学び、リスクへの自覚と知識が備わる 事業ベースライン(1 年次)と事業終了時評価(3 年次)は、事業対象地全体の女性と女兒を対象とした調査を想定しているのに対し、1 年次終了時の計測値は特定の活動に参加した女性・女兒のみを対象に実施したプレ・ポストテストの結果となっている。このため計測値が対象活動の成果のみを示す値となり、全体的に目標値を大幅に上回っている。しかし、設定した目標値はあくまで事業対象地全体を対象であるため、計測値を単に比較することはできない。2 年次は測定方法を再考し、設定した目標値に照らして比較できるよう、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。 【指標】: 人身取引や VAWC の報告に対応するサービスや仕組みが村に存在することを知っている女性の割合が増える - 目標: 63.5% - ベースライン(2020 年 11 月実施): 女兒 57.5%、女性 43.9%、 - 結果: 82.5%まで増加。啓発セッションに参加した女性にインタビューとチェックリストを用いて調査した。 - 1 年次終了時の数値は女性グループの啓発セッションに参加した女性のみを対象に実施したプレ・ポストテストの結果を参照したため数値が大幅に上昇した。2 年次は測定方法を再考し、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。 【指標】: コミュニティ・センターを月に2回以上の頻度で利用している村人の割合(ジェンダー・年齢別)が増える - 目標: 23.1% - ベースライン(2020 年 11 月実施): 0% - 結果: 26%。19-30 歳の女性の 26%が月に 2 回以上の頻度でコミュニティ・センターを利用していると回答した。この指標は、今ある既存のセンターの数が母数となるため、毎年その母数は変化する。 【指標】: 女性と女兒の暴力について報告した女性の割合が増える - 目標: 24.8% - ベースライン(2020 年 11 月実施): - ① 子どもの保護委員会が対応したケースの数は 0 件 - ② 「もし人身取引の被害に遭ったら報告を行うか」という問いに対して Yes の回答 28.7% - 結果:

	- ①9 件に増加した。 - ②「もし人身取引の被害に遭ったら報告を行うか」という問いに対して Yes の回答、53.0%に増加。 - 本指標は、啓発によって暴力の報告が増える側面と、啓発によって暴力の件数そのものが減る側面と 2 つあることを鑑み、報告件数と合わせてみていく指標となっている。報告件数は、いったん上昇した後(報告が増える)、減っていく(暴力件数が減る)傾向を想定しており、想定通りの結果となった。 - 1 年次終了時の数値は女性グループの啓発セッションに参加した女性のみを対象に実施したプレ・ポストテストの結果を参照したため数値が大幅に上昇した。2 年次は測定方法を再考し、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。 【指標】: Smart Navigator Toolkit にのっている人身取引と VAWC 予防の知識が向上した保護者と女性グループリーダーの割合が増える - 目標: 60% - ベースライン(2020 年 11 月実施): 0% - 結果: 88%。研修後、参観者のうち 88%が人身取引と VAWC 予防の知識の向上を示した。研修受講者のみを対象に研修前後にテストを実施し、その解答から計測を実施した。2 年次は測定方法を再考し、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。 【指標】: リーダーシップに関して知識が向上した女性グループメンバーの数 - 目標: 80 人 - ベースライン(2020 年 11 月実施): 0 人 - 結果: 131 人。研修受講者のみを対象に研修後に実施したポストテストで 70%以上取得し合格した女性の数。131 人の女性がリーダーシップに関する知識の向上を示した。 【成果 2】女児(12-18 歳)が、学校や子どもクラブでの活動を通して人身取引や VAWC のリスクから自分と友人を守るスキルを身に付ける 【指標】: 人身取引や VAWC を報告した際、受けられる支援について知っている女児の割合が増える - 目標: 77.2% - ベースライン(2020 年 11 月実施): 57.5% - 結果: 84.18% - 子どもクラブの研修受講者のみを対象に研修後に実施したポストテストで 70%以上取得し、合格した女児の割合。2 年次は測定方法を再考し、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。 【指標】: ライフスキルの知識が向上した女児の割合 - 目標: 70% - ベースライン(2020 年 11 月実施): 0% - 結果: 85%。子どもクラブの研修受講者のみを対象に研修後に実施したポストテストで 70%以上取得し、合格した女児の割合。2 年次は測定方法を再考し、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。
--	---

【成果 3】女兒と女性が収入向上の術を会得する【指標】: 研修で学んだ方法に則って家畜を育てている女性グループのメンバーの割合が増える

- 目標: 60%
- ベースライン(2020 年 11 月実施): 0%
- 結果: 未計測。参加者の改善された技術がどのように適用されたかを確認するための家畜は、まだ提供しておらず、2 年次で実施予定のため未計測。

【指標】: 紹介された安全な職の詳細を問い合わせ、または応募した女兒と女性の割合

- 目標: 10%
- ベースライン(2020 年 11 月実施): 0%
- 結果: 18%。求人イベントで紹介された安全な職の詳細を、イベント参加後に問い合わせた女兒と女性の割合。目標値の 1.8 倍の女性と女兒が、イベント終了後 DoLISA に紹介された職の詳細を問い合わせた。

【成果 4】人身取引と VAWC の予防のための枠組みが効果的に実施される

【指標】: 子どもの保護委員会が対応したケースの数が減る

- 目標: 11 件
- ベースライン(2020 年 11 月実施): 0 件
- 結果: 9 件。
- 目標 11 件に対し、1 年次の結果は 9 件と目標を達成することができなかった。しかし 9 件は対象コミュニティの CPC に正式に報告されたケースの数で、実際に CPC に伝えられたケース数は 11 件を上回った。今回の結果に含まれなかったのは正式な記録がないためである。電話や立ち話などで伝えられ、対応されたものは、条件を満たした報告として CPC の記録に残されておらず、1 ケースとして数えられない。今回の結果を受けて、2 年次の研修では、報告時の手順や手続きについてより強調して説明していくこととした。子どもの保護委員会のメンバーが報告を受けた際の手順や手続きをしっかりと理解し、適切に対応することによって、ケースとして立件することができ、報告されたケースを取りこぼさないようにすることができる。

【指標】: 自分の住む地域が女性と女兒にとって安全であると感じている保護者・両親の割合が増える

- 目標: 60%
- ベースライン(2020 年 11 月実施): 56.6%
- 結果: 73%まで増加した。啓発イベントに参加した保護者への調査票の回答より計測した。2 年次は測定方法を再考し、指標結果を収集するため小規模調査を実施することにする。

【指標】: 人身取引と VAWC の問題の鍵と、予防に関して自分の役割・責任を理解している政府スタッフの割合

- 目標: 65%
- ベースライン(2020 年 11 月実施): 36%

	－ 結果:65%まで増加した。研修に参加した政府スタッフへの調査票の回答より計測した。 【SDGs への貢献】 女兒・女性に対する VAWC 予防の啓発活動、能力やスキルの向上、生計向上の活動実施とその成果を通じて、以下の目標実現に貢献した。 <u>目標 5</u> ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女兒の能力強化を行う 5.2 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女兒に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する <u>目標 16</u> 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。 16.2 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する
(4)持続発展性	CPC は村長、学校長、DoLISA 職員、女性連合などで構成されており、事業の中核を担っている。事業終了後に、活動を自立発展的に継続するため CPC のオーナーシップの向上を念頭に、CPC との協力体制の強化、情報共有などに注力しながら活動を実施している。 また事業終了後を見据えて、活動に政府の資金から必要な予算を確保するような働きかけなど、継続的な活動実施のための戦略を検討している。3 年目には、具体的な引継ぎの計画を策定し、CPC と郡の DoLISA に事業を引き渡ししながら活動を実施する予定である。事業 3 年次の 1 年間、CPC と郡の DoLISA と伴走をすることによって、事業終了後に CPC と郡の DoLISA が活動を引き継ぎ、継続していくことができるようになる。 また本事業で建設されるコミュニティ・センターは、コミュニン人民委員会が管理し、郡の人民委員会が監督する。事業終了後も、女性がコミュニティ・センターを継続して利用し、センターが適切に管理・運営されるように、CPC はコミュニティ・センター建設の準備段階からコミュニン人民委員会と村長を巻き込んで建設を進めた。 弊団体は本事業の事業地において、自己資金による地域開発プログラムを展開している。特に、ムオンチャ地区とトアンザオ地区の事業は、本事業終了後、それぞれ少なくとも 2025 年まで継続する予定がある。そのため、当事業の終了後も適切に活動が継続されているかについては、当団体で開発プログラムの活動の一環として適宜モニタリングを実施する。